外来がん薬物治療情報提供書 FAX 06-6646-6051（平日９：00～16：30）

大阪公立大学医学部附属病院外来がん薬物治療情報提供書案

年　　月　　日

保険薬局名	薬局			薬局 FAX 番号	
薬剤師名		処方箋発行日	年　　月　　日	薬局電話番号	
患者氏名		患者 ID		聞き取り日	
診療科		医師名		聞き取り対象者 □患者本人 □家族	
報告に対する患者同意		□有　　□無（診療上必要と認められるため情報提供します）			
治療内容（レジメン、薬剤名など）					

緊急連絡が必要な重篤の症状(ありの場合は患者より医師に連絡する様に指示してください。)

症状・病名		重篤の症状（irAE と記載されている症状はチェックポイント阻害薬使用患者に使用）
感染症	□	38℃以上の発熱があり、発熱時抗菌薬の指示がない
間質性肺炎	□	37.5℃以上の発熱を伴う新たに発現した（増悪した）呼吸困難・息切れ
重篤な出血	□	吐血・下血・喀血などがある
浮腫	□	明らかな浮腫があり、３日以内に２kg 以上の急激な体重増がある
重症筋無力症・筋炎（irAE）	□	まぶたが下がってくる・手足に力が入らない
心筋炎（irAE）	□	胸が締めつけられるような痛み
１型糖尿病（irAE）	□	異常な喉の渇き、多尿
重度の皮疹（irAE）	□	全身に広がる発疹、粘膜のただれ、水ぶくれ
大腸炎（irAE）	□	激しい腹痛・血便・黒色便

その他下記の中等度以上の有害事象を聴取した場合、聴取した症状に☑をつけ、症状の詳細・指導内容・提案内容を記載してください。
重度の症状の場合患者本人に速やかな受診を勧めてください。

症状・病名	中等度の症状（本情報提供書で情報提供をお願いします）		重度の症状（当院またはかかりつけ医の受診を勧めてください）	
下痢	□	ベースラインから 4-6 回/日の排便回数の増加 人工肛門からの排泄量の中等度増加	□	ベースラインから 7 回以上/日の排便回数の増加 人工肛門からの排泄量の高度増加
便秘	□	緩下薬または浣腸の定期的使用を要する持続的症状	□	摘便を要する頑固な便秘
食欲不振・ 吐き気・嘔吐	□	顕著な体重減少,脱水または栄養失調を伴わない経口摂食量減少	□	カロリーや水分の経口摂取がまったくできない
口内炎	□	中等度の疼痛(経口摂取に支障がない・食事の変更を要する)	□	高度の疼痛(経口摂取に支障がある)
末梢神経障害	□	身の回りの日常生活動作が大きく制限される	□	
ざ瘡様皮疹	□	顔面・躯幹に全体で 50 個前後の丘疹・膿疱を認める。疼痛・そう痒を時に感じる。症状について他人から指摘される。	□	顔面・躯幹・四肢に全体で 100 個前後の丘疹・膿疱を認める。疼痛・そう痒を常に感じる。他人との面会が億劫である。
手足症候群 (HFS)	□	手掌・足底に発赤・水疱形成が見られ、疼痛を時に感じ、日常生活の作業・歩行に差し支えることがある	□	手掌・足底に発赤が著名で大型の水疱が見られ、強い疼痛を常に感じ、日常生活の作業が行いづらく、歩行しづらい
爪囲炎	□	発赤・腫脹が見られ、疼痛を時に感じ、日常生活の作業に差し支えることがある。	□	発赤・腫脹が著名で疼痛が常に強く、時に血管拡張性肉芽腫を生じ、日常生活の作業が行いづらく、歩行しづらい
疲労感	□	身の回り以外の日常生活動作が制限される休息によって軽快しない疲労	□	身の回りの日常生活動作が制限される休息によって軽快しない疲労
高血圧	□	収縮期血圧 160-179mmHg かつベースラインの収縮期血圧から２0mmHg 以上の上昇（複数回）	□	収縮期血圧≧180mmHg かつベースラインの収縮期血圧から 40mmHg 以上の上昇（複数回）

症状の詳細・指導内容・提案内容など

□内容を確認し、処方医へ報告しました（電子カルテスキャン済み）。

□その他 （　　）　　薬剤師＿＿＿＿

このFAXによる情報伝達は疑義照会ではありません.　　**薬剤部 FAX 受付 → 化学療法室 薬剤師**